

議会報

飯南

いいなん

第55号
平成30年10月19日

- 02 特集 農業は生業だ
- 04 9月定例会報告
可決された主な議案 陳情
一般会計補正予算
- 05 一般質問
- 11 討論 採決の結果
- 12 視察研修報告
- 14 常任委員会報告 議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 16 明日を拓く



特集

農業は生業だ

なりわい

8月1日に飯南町ニューファーマー研修会(夏季・園芸)が開催された。講師は、(株)福岡園芸の福岡和徳会長で「土壌還元消毒方法と効果」と題して、座学のほか現場で土壌の消毒方法を実習した。

圃場は、2日前から県・役場の担当者とJA職員によって準備され、福岡会長の指導の下、堆肥や米ぬかを散布し、耕起し、よく混和してあった。

福岡会長のトラクターの使い方は、レバーアクセルを使わずエンジン回転数は音で判断し、足でアクセルを操作する。また、一度で仕上げる耕起作業で、無駄の排除が図られている。福岡園芸の10アールあたりトマト生産額は、年間300万円以上ということだが、町内トマト農家では140万円程度である。

宮城県登米市では、10年前から水稲の直播栽培じかまきに取り組み、市が機械導入を支援(湛水用20%以内、乾田用40%以内)している。耕起は燃料と時間が節約できるプラウを推奨し、耕起作業や乾田播種を動画にしてインターネット上のYouTubeで公開し、周知に努めている。

本町においては、圃場や気候条件の違いがあるので同じことはできないにしても、大生産地が日進月歩の努力をしている中で、「今までどおり」を続けていれば、競争力を失い、基幹産業である農業を失ってしまうことにもなる。

転作作物に対して、補助金がある間は米の過剰生産が抑えられ、急速な価格の下落は無いかもしれないが、減額により補助金メリットが無くなれば、たちまち米は生産過剰になる。

本町が生き残るためには、農業競争力の確保は喫緊の課題である。全国的視

野の中で何を競争力とし、どのようにしてこの力を手に入れるか、早急に取り組むべきだ。

本町の米の生産原価は、法人で30kg約7000円といわれているが、販売価格もほぼ7000円では利益が出ない。再生産可能な農業を目指すとしていくが、肝心なのは作業をしている農業者が1年間生活できることである。電気代や水道料、健康保険料を払って、毎日食事をとることができるからこそ、来年も農作業に従事できるのだ。農業者無くして農業はできない。

安心して稲作農業を続けていくためには、米の販売単価が今以上に期待できない中で、生活費が稼げるように原価を下げる努力を惜しんではならない。園芸作物にも徹底した原価管理と生産技術の向上が必要だ。

生産技術の改革など、今盛んにイノベーションという言葉が叫ばれている、

- ・新しい生産物、または生産物の新しい品質の創出と実現
 - ・新しい生産方法の導入
 - ・産業の新しい組織の創出
 - ・新しい販売市場の創出
 - ・新しい買い付け先の開拓
- 登米市では、行政が主導してこのことを行い、JAやかつての農業公社はこれに応えた。

本町の農業が10年後もここにあるための戦略を、今までの常識を捨て去る覚悟で考えなければならぬ。この町の優位性はどこにあるのか、または何を持って優位性にするのか。

農地を保全するためだけでは、必ず限界がくる。農家と行政が協力し、知恵を出し合って明日を切り開いていかなければならない。

9月定例会終わる

9月4日から14日までの11日間で開催

頓原庁舎の跡地利用に係わる予算が提案された。駐車場と広場を整備するもので、今後の活用が期待される。

谷地区では、地域の課題を把握し、ボランティア活動と結びつける目的で、中間支援組織を立ち上げる。

琴引スキー場の人工降雪機用貯水池が、7月豪雨のため排水溝が沈下し、堰堤がひび割れた。設計した業者が瑕疵を認め、補償額を考慮した予算が提案された。

来年度から森林経営管理制度が始まる。準備のため林政アドバイザーを雇用する。

※森林経営管理制度
経営管理が行われていない森林を、市町村が仲介役となり森林所有者と森林経営者をつなぐシステムを構築し、担い手を育成する制度。



可決された主な議案

■ 条例関係

飯南町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてなど2件

■ 予算

平成30年度飯南町一般会計補正予算(第5号)など7件

■ 諸議案

H30(交付金)町道頓原長谷線道路改良工事(8工区)請負契約の締結など4件

■ 報告

平成29年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告1件

陳情

谷高齢者「コミュニティセンター改修要望書」

〔陳情者〕 谷自治区長(谷自治振興会会長) 永田 一博

〔審査委員会〕総務厚生常任委員会

〔審査結果〕 採択

決算審査特別委員会を設置

平成29年度飯南町各会計の歳入歳出決算をするため、決算審査特別委員会を設置しました。

委員長 門眞一郎
副委員長 安部丘

委員

伊藤好晴
瀧尻行雄
高橋英次
景山登美男

Q 避難対応の手順は

7月豪雨出水時の町民への早めの情報提供は良かった。その際の避難所設置箇所が、設定された避難場所と異なっていたがなぜか。また、過去の記録から警戒水位、氾濫危険水位など情報収集に努めれば、早い対応ができるのではないかと。河川の流量がわかるように、橋脚に印をつけてはどうか。

早めの住民避難には、正確な情報収集が必要だが、ルールはできているか。また、避難場所での対応等きちんとした手順書ができているのか。併せて計画的な実践訓練を求め



A 今年度中に検討する

町長 山崎 英樹

反省を踏まえ、各支所を早い段階で避難場所として開設し、行政の体制を整えた。防災担当者以外に主任以上の職員も動員し、降雨予報の観察、関係機関との連絡調整等、夜を徹して行った。

情報収集には、県の防災情報システムやNHKなどを活用している。橋脚に印をつける方法は今後検討する。

豪雨の際には、災害警戒本部を設置する。松江地方気象台長とのホットラインを構築し、直接連絡をもらうシステムになっている。

避難所運営マニュアルを今年度中に策定予定だ。大きな被害を受けた呉市の避難所で、職員2名が4日間支援活動に臨んだ。その経験を活かした自主防災組織の強化に努める。

Q 地域おこし協力隊支援は

7月18日の山陰中央新報で、松江市の協力隊2名がジビエの製品開発を通して地域の活性化に取り組み記事が掲載されていた。

町内で活躍している11名の協力隊員は、自ら思い描いた活動ができているのか疑問に思う。募集要項と活動状況および満足度はどうか。

A 満足度は高い

地域振興課長 那須 忠巳

総務省の定める要項に基づき、全国から募集している。募集要項を見て、自らの思いと合致する団体に応募し、元気に活動を展開している。

2か月に一度、全員が集まる交流会や、県主催の研修会に参加するなど、スキルアップも図っている。会議の雰囲気や会話の中から、満足度も高いと感じている。



協力隊員

一般質問

9月定例会



内藤 眞一 議員



一般質問

9月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 学校の学習環境整備を

町政座談会で、子どもの健康を危ぶむ意見があったが、学校へのエアコン設置は必須と思う。設置は全国的に進んでおり、本町は全国平均以下で、近隣と比較しても低い。一刻も早い設置を求める。

熱中症予防には、生活環境を把握する必要がある。WBGT(暑さ指数)のチェックが重要で、計測器の設置を求める。

授業中の水分・塩分の補給に配慮し、お茶だけでなく、スポーツドリンクなどの摂取が必要ではないか。

A 空調機器整備は必要

教育長 矢飼 斉

空調機器の整備は必要である。設置場所は、学校・財政と相談しながら検討する。

WBGT計測器は、各教室・体育館等も必要だと思う。

校長会では、スポーツドリンクの摂取はしないほうがいいということだった。保健室にスポーツドリンク等は常備している。



エアコンの設置が検討される教室

Q 防災・被災対応

地震や豪雨・豪雪などに備えた観測体制整備、防災体制、自治組織などを中心とした防災力の強化を図ること。被災時には、すべての被災者を対象にした支援が重要である。何よりも住民参加での実現が重要と考えるがどうか。また、指定避難場所が危険という声があり、再検討が必要と思うがどうか。

自主防災強化のため、町がすすめる防災士の資格取得に併せ、自治会ごとに配置できる数の防災士を養成し、任務についてもらうてはどうか。

県は島根県西部地震の際に、半壊と一部損壊に対し助成する制度をつくったが、今回に限るという制限付きである。制度持続を求めているが、検討するとの回答だった。安心・安全のために必要な支援制度で、町として制度の維持を求める必要がある。本町で行った見舞金支給も制度とする必要があるがどうか。

住宅・店舗リフォーム制度と、被災者生活再建支援を併せ持った制度の実施を提案する。

A 住民ともに対応

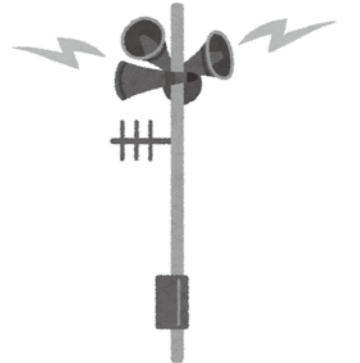
町長 山崎 英樹

防災は、住民と行政、関係者が共になって、備えを確かなものにしておかなければならない。指定避難場所のすべてが完璧に安全とはいえず、実情を申し出ていただき一緒に考える。

防災士は自治会単位にいてもらい、地域の自主防災をリードしていただきたい。

県の助成制度は恒久的な制度にすべきと思う。

町の見舞金は、県の動向を見ながらセットで考える。リフォーム制度と絡めた提案は、研究が必要。趣旨は承知した。



一般質問

9月定例会



高橋 英次 議員

Q 投票所への移動支援を

平成31年には、地方選挙と国政選挙が予定されている。全ての有権者に、選挙に出かけ一票を投じて頂きたいが、身体に障がいのある方、バス停まで歩くことが困難な方が町内に行くことが困難な方が町内におられるのではないか。

全国では、車椅子・ストレッチャーに対応する車での送迎、保健師同乗で公用車による送迎、投票日当日の無料送迎バスの運行などを行っている。また、近隣の浜田市では、自動車による移動期日前投票所の巡回設置など、投票環境改善に取り組んでいる。本町の実態と取り組みを問う。

A 利便の向上を検討

選挙管理委員長 景山 武

平成28年に投票所を閉鎖した3地区では、投票日に無料送迎バスを運行したが、利用者がほとんどなく、平成29年10月の選挙から中止している。

その後、谷地区のように自治会輸送を行っている地域もできた。また、利便性を図り4ヶ所の期日前投票所の開設と、老人ホーム3施設で期日前投票を行っている。今後は、デマンドバスの利用を、町と協議・検討する。

Q 除雪機械運転手確保は

県は、除雪機械運転資格取得に支援を行う方針を固め、補正予算案に300万円を計上した。

本町でも、除雪機械運転手の高齢化と後継者不足に加え、年々増加する稼働時間など厳しい状況である。それらを踏まえ、以下の3点を問う。
・平成29年度の除雪費と稼働時間はいくらか。
・資格取得の負担軽減と作業員育成の支援策は。
・役場職員に運転資格を取得させ、補助要員として育成する考えは。



町内の除雪作業

A 現制度を充実し支援

町長 山崎 英樹

平成29年度の除雪費は、総額1億5百万円余。うち、個人・建設業者への作業委託費は6千2百万円。稼働時間は5千7百時間である。

本町では、「産業人材育成助成金制度」を設けている。県の制度が出来れば、町のこれまでの制度をさらに充実させた支援を考えたい。

役場職員の補助要員は、現体制では困難。町では人材確保支援センターを設け活動している。引き続き人材確保に努める。



一般質問

9月定例会



門 眞一郎 議員

Q 素読教育へ 取り組み

本町は「森の保育園」に取り
組む考えを示した。

幼児期に言葉の力をつける
ことには重要な意味があり、平
安時代から素読教育が行われ
てきた。

最近の若者や子どもたちは
語彙力が乏しく、読解力が弱
いが、幼児期にたくさん言葉
を記憶していれば、このことは
解決される。

全国から、「飯南町で子ども
の教育を受けさせたい」と願う
保護者が子どもと一緒に移住



してくる町を目指すなら、森の
保育園に素読教育をあわせ
て、希少な取り組みにするべき
だ。

A 研究が必要

教育長 矢飼 斉

幼児期に文章を声に出して
読むことは、国語の学習などに
効果があると思うが、素読教
育への取り組みは研究が必要
と考える。

A 総合的に検討

町長 山崎 英樹

保育所保育指針が改正さ
れ、幼児期の終わりまでに育つ
てほしい10の姿が示された。

これにより、保育所でも幼児
教育に取り組むことが出来る。
現状では保育士体制などに
課題があるので、総合的に検討
したい。

※素読とは、文章や文、単語を、意
味の理解を伴うことなく、その字面
を追って、または手本となる発話者
通りに声を出して読むこと。リード
役の人の言葉をオウム返しするだ
け。

Q 一貫教育に横串を

本町は保小中高一貫教育を
標榜しているが、縦割り構造を
横串で貫き通されていなくて
はならない。一貫教育の目的は
「確かな学力と生きる力を養
う」であるが、具体的に何をど
うするのか、何ををもって一貫な
のか良く分からない。

これらの課題を解決する鍵
は幼児教育にあり、保小中高一
貫教育を貫く横串は、素読を
中心とした日本語教育にある
と結論付ける。

保育所や学校教育の現場に
おける主役は、子どもたちで
ある。周囲にいるわれわれは、
障害があるならば、全力を尽
くして取り去らねばならない。
素読教育を推進することに
よって、縦割り教育を貫く横串
とすることを重ねて提案する。

A 関係者で議論

教育長 矢飼 斉

飯南キラリ・ドリームアップ
推進協議会における保小中高
一貫教育計画見直しの中で検
討する。

教育コーディネーターの配
置、保育指針の改正など体制
は整っている。

具体的内容は、専門である
保育や教育に携わる関係者で
議論していただきたい。

町長 山崎 英樹



一般質問

9月定例会



景山 登美男 議員

Q 災害への備え必要

近年、日本各地で豪雨災害
や地震など、大小様々な災害
が発生している。そのたびに、
「過去に経験したことがない」
とか、「観測史上最高」とか言
われている。いつ起こるかわか
らないが必ず起こるのが災害
であり、今後ますます災害に
対する備えの必要性が問われ
ている。

①「避難準備・高齢者等避難開
始」が発令されれば、一人暮ら
しのお年寄りや障害のある方
介護が必要な方など、自力で
の避難が困難な方や、避難に
時間を要する方は避難を始め
ることになっている。

このような「避難行動要支
援者」に対して、あらかじめ支
援する人を定めておく考えは
ないか。

②町指定避難所は、日頃は集
会所として、高齢者のサロンや
長生き体操の会場として利用
されているが、環境整備が充分
でない施設もある。

お年寄りなどに避難を促す
ためにも、全ての町指定避難
所に洋式トイレ、手すりやす



ロープ、エアコンを整備する考
えはないか。

③避難所では生活することが
できない要配慮者のため、福祉
避難所を指定するとなってい
るが、現状どのようななってい
るか。

あらかじめ、福祉施設との
協定を考える必要があるのか
はないか。

A 備えは重要

町長 山崎 英樹

①避難に時間や支援を必要と
する方に対し、あらかじめ避
難行動を支援する関係者が話
し合い、いざという時に行動で
きるよう定めておくことは重
要だ。

自主防災組織の強化を図り
ながら、行政と住民で、より強
いセーフティネットを作っ
ていく。

②通常からこうした施設が快
適に利用できることは大切で
あり、町有施設については改修
を行う際に考慮していきたい。



氾濫した赤名川

また、集落で所有されている集
会所には、地域コミュニティ助
成事業などを紹介する。
③福祉避難所には専門職の配
置が必要であることから、現在
保健福祉センター1箇所を指
定している。

しかし、1箇所では十分でな
いことから、来島高齢者生活
福祉センターを指定できるよ
う、社会福祉協議会や関係者
と協議していきたい。

福祉施設との協定について
は、内閣府が出している福祉避
難所ガイドラインを参考に、
飯南町福祉施設協議会などを
通じて検討したい。

一般質問

9月定例会



早樋 徹雄 議員

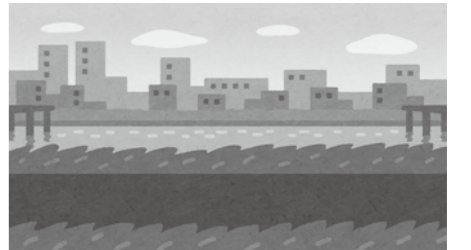
Q安全の確認は

来島拠点複合施設は、敷地1mの埋め立てで、洪水時に大丈夫かと心配する声がある。3月の住民説明会で2・5m埋め立てる説明が一旦なされ、これを大幅に低く変更されたことが心配の要因のひとつ。判断に至った町長の見解を問う。

A根拠を以て決定

町長 山崎 英樹

住民説明会において「盛土の具体的な高さは」の問いに、担当から「近隣住宅との高低差や地質調査、詳細な測量等を行った上で決定するが、現段階では2・5mの嵩上げを想定している」と答弁した。当時は、色々な検討や調整が必要な段階で、慎重さを欠いた発言であった。



敷地は河川沿いに90mあり、上流側に対し下流側が80〜90cm低い。現在は、上流側から30mを0・5〜1m、続く20mを1〜1・5m、残り40mを1・5〜2m埋め立てる計画である。これで下流のみせん橋より0・6〜1・2m高くなる。

また、現在の敷地高でも、100年に一度の洪水時の水面より33センチ高い。現在の河川断面の流量は毎秒750tあり、近年では平成18年災害の流量が最大だが、この時の来島ダムでの流量が530tであり、この敷地高であれば十分にクリアできる高さと言える。これらの根拠を以て決定した。また、神戸川の堆積土の除去は必要であり、河川管理者の島根県に強く要望する。

Q敷地造成の日程は

本年度の敷地造成工事の執行予定について問う。9月議会定例会の町長行政報告で、10月には住民説明会を行い、造成工事に着手したいとのことだったが、既に9月を過ぎようとしている。

A鋭意進めている

町長 山崎 英樹

10月には、盛土など工事を始められるよう、鋭意、業務を進めている。

なお、着工にあたっては住民説明会を行い、理解を求めるとともに、通学路や近隣施設を利用する町民の安全対策に十分な配慮を行う。

積雪地帯でもあり早期の着工が望まれるが、今後の日程を改めて確認する。



来島拠点複合施設建設予定地と下流のみせん橋

DEBATE

討論

飯南町一般会計補正予算(第5号)

- 林政アドバイザー給料、来年から始まる森林経営管理制度の事前準備のための人件費。
- 琴引フォレストパーク人工降雪機用貯水池の災害復旧費680万円余。

飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)

- 反対討論 伊藤 好晴議員
- 利益でない森林を市町村が管理することになり、過大な負担になる。

法律は、森林経営者の経営権に介入して強制的に経営の自由を奪う仕組み。

災害防止など、公益的な機能の発揮や、地域の雇用・所得を保障することで林業再生を図るべきであり、正規の職員とするべきだ。

○谷川を堰き止めたことによる2次災害の発生、貯水池の底部は重量に耐えるのかなど検証が

必要。今年の開業に合わせた工程にも無理がある。根本から練り直せ。

○差別的な制度を廃止し、高齢者医療への国庫負担を増額して、保険料・窓口負担の負担軽減を目指すべき。

賛成討論 門 眞一郎議員

○林政アドバイザーが若手担当職員を育成されることを期待する。

林道整備等が行われ、点在する人工林の収益性が上がり、山林所有者に利益が出るようになるよう期待する。

○湧水が地下部を浸食したことが原因で改善される。

800mmの排水管と上流部の保安林は平成18年災害に機能し、被害がなかった。

賛成討論 熊谷 兼樹議員

○前年度繰越金が確定し、一般会計からの繰入金を減額するもの。この制度は国会で決まったもの。制度に対する批判は国に対して活動するなり、政権を担って改革を図るべきだ。

採決の結果

[9月定例会]

全13議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	伊藤好晴	瀧尻行雄	門眞一郎	熊谷兼樹	内藤眞一	早樋徹雄	高橋英次	景山登美男	安部 丘
飯南町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町障がい者共同生活支援施設の設置及び管理に関する条例等の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H30(交付金)町道頓原長谷線道路改良工事(8工区)請負契約の締結	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H30(交付金)新衣掛団地2期建設工事請負契約の締結	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H30中央監視装置整備工事請負契約の締結	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(町営バス車両)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町一般会計補正予算(第5号)	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町下水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町病院事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成 ●反対

宮城県登米市

農業生産額 一日一億円の現場を視察

登米市は宮城県北部に位置し、平成17年に登米郡8町と本吉郡津山町が合併して誕生しました。人口は約8万人で、面積は536km²、耕地面積は33%という農業中心の地域です。

農業振興

主要産業は農業で、平成19年に登米市農業生産1日1億円創出プランを策定し、平成24年に年額369億5千万円を達成した。その後は未達であるが、恒常的な達成に向け努力しているという。

農業経営体は6千306戸で、稲作面積は1万325ha、養豚6万7千579頭など、宮城県内で1位となっている。



であるが、従業員数はわずか6人。

高橋良代表から、48mm径のパイプで組まれた牛舎で説明を受けた雪の降らないところはいいな。牛舎は、肥育棟、生産棟、子牛棟の3棟で構成されており、生産棟では高橋代表のお父さんが濃厚飼料を母牛へ与えておられた。

水稲は、多収品種を不耕起直播で栽培しており、雪の降らない冬場に

稲ワラをロールして和牛の素飼料にしている。転作は、秋から冬に掛けて麦を作付け。6月に刈り取り、7月にロールし飼料化、その後大豆を作付けしているという。

説明を受けている間も、1000馬

力はあるかと思われる3台の大型トラクターで集草とロール作業。それを追いかけるようにプラウ(鋤)で土煙を上げながら耕している。耕やすとすぐに大豆を播くそうだ。

飼料原価、作付け原価は、飯南町とは比べ物にならないほど安いことが容易に推察できた。

【園芸作物】

登米市のキュウリ、キャベツは国の野菜指定産地に指定されている。キュウリは4月から11月まで安定出荷されており、産出額は7億7千万円、作付面積は36ha。キャベツは約1億円を69haで産出している。



登米市のキュウリ、キャベツは国の野菜指定産地に指定されている。キュウリは4月から11月まで安定出荷されており、産出額は7億7千万円、作付面積は36ha。キャベツは約1億円を69haで産出している。



登米市の1戸あたり平均和牛飼養頭数は28頭であるが、全飼養頭数は2万5千402頭で、本州最大の和牛産地である。また、仙台牛の4割以上を生産している。

委員会は、耕種と畜産の複合経営を行っている(旬エヌ・オー・エー)を視察した。同社の経営規模は水田(転作を含む)120ha、和牛飼養頭数は1000頭、推定収入額2億円

教育振興

【小中一貫教育 豊里小中学校】

豊里小中学校は、登米市豊里地区に建つ校舎一体型小中一貫校だ。

一貫校設置の背景には、基礎学力の定着不足、不登校、問題行動があった。これに取り組んで、9年後までの教育プロセスが明確となり、中1ギャップが解消されたという。また、児童生徒の交流を通じた社会性の育成が図られたようだ。

反面、教職員はさらに多忙となり、小中の異なる生活(時間割、クラブ活動など)の棲み分けが必要となったそうだ。

当初は、児童の心理的発達を考慮し、9年間を3・4・2制に区切り、前頭前野の急激な発達期、形式的操作の可能期と学年とのギャップを解消する目的であった。

当時は優秀な教員が派遣されてきており、学力にも顕著な効果が現れたが、転勤が進む中で学力の維持が困難となった。

また、中学校1年のクラブ活動が他校と整合が取れないなどの問題が生じてきたため、現在は3・3・3制にされている。

小中合同の校内授業研究



共に学ぶ: 9年生が1年生に読み聞かせ



慰霊

【石巻市立大川小学校】

平成23年3月11日の東日本大震災。大川小学校では地震のあと、校庭で待機していた78人の児童を北上川を遡上してきた津波が襲い、一瞬にして飲み込んでしまった。生存者はわずか4人であった。

津波は2階建て校舎の屋根を超え、窓や戸はすべて破壊されている。鉄筋コンクリートだけになった小学校の建物は、当時のすさまじい津波の力で捻じ曲げられていた。

私たちはただ息を呑み、手を合わせるだけであったが、他山の石とせず、飯南町の防災への取り組みに尽力したい。



教育経済 常任委員会

委員長 内藤 眞一



飯南町アンテナショップ iまるシェを視察

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第5号)

河川維持補修事業 253万円

下三日市地内にある自動堰が作動不能となったため、修繕するためのもの。

予算が、委託費115万円、工事請負費137万円で構成されていることへの疑問が呈され、大型土のうによる河川の水替え工事と保守・点検に分かれているとの説明をうけた。

現年補助○公共土木施設災害復旧 1億3051万円

河川(6/28~7/1)2件、河川(7/5~7/8)24件、町道(7/5~7/8)1件の復旧費で、申請の箇所すべてが採択された。

中学校共通臨時管理費 195万円

病弱生徒が来年度入学するため、教室を改修し、空気清浄機等を導入する。

森林経営管理制度推進事業 136万円

林政アドバイザー1人分の人件費。
来年度から始まる森林経営管理制度の対象となる山林の情報収集と整理を行う職員を雇用する。

琴引スキー場外臨時管理費 680万円

人工降雪機用貯水池が、7月の豪雨で排水溝が沈下し、堰堤がひび割れたことに対する災害復旧費。
総額は1,533万円であるが、町が実施する部分は680万円で、853万円は日本ケーブル(株)が実施する。これは、貯水池が建設されたときの設計に瑕疵があったことを会社側が認め、補償するものである。事務処理が適切であるか疑問視する意見があったが、適正であるとの報告を受けた。

二度と同様の被害を受けることの無いよう、取水・排水を含めた水を扱う専門業者の助言を受けるべきとの意見があった。



被災した人工降雪機用貯水池

審査意見

琴引スキー場外臨時管理費

人工降雪機用貯水池の災害復旧に当たっては、再びこうした瑕疵による災害が起こらないよう、設計・工事施工に十分留意されたい。

議会全員協議会の議題

平成30年8月16日(木)

- ① 地方公務員法の改正に伴う臨時・非常勤職員の任用制度の変更について
- ② 旧頓原庁舎の跡地利用について
- ③ 来島拠点複合施設の建設について
- ④ 琴引フォレストパークスキー場人工降雪機用貯水池について

平成30年9月14日(金)

- ① 来島ダム出水期運用水位見直しについて
- ② 障がい者の雇用率について
- ③ 知事要望について
- ④ 総合振興計画等評価委員会の答申について
- ⑤ 赤名小水力発電所の今後のあり方について

総務厚生 常任委員会

委員長 瀧尻 行雄



遊具補修箇所の確認(赤名保育所)

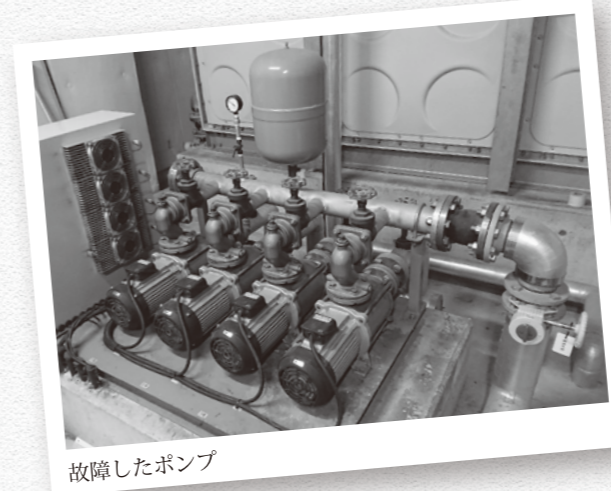
平成30年度 飯南町病院事業会計補正予算(第2号)

施設整備費 560万円

一度貯水槽に水を溜め、4台のポンプで院内へ送水しているが、1台が故障し能力が低下した。

このポンプは部品供給が終了しており、既設の制御盤も新型ポンプに対応していないため、ポンプユニット一式を交換するとの説明であった。

病院全体へ送水しているのかとの質問に対し、調理場へは水道管から直接引いているとの説明だった。



故障したポンプ

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第5号)

来島拠点施設整備事業 1106万円

施設整備に伴う移転補償費の増額であるが、詳細に調査したうえで費用額を算出し、予算計上をすべきとの意見があった。

保育所共通臨時管理費 230万円

業者による遊具点検実施で、経年劣化が指摘された遊具を修繕するものである。前回の点検が平成26年であり、安全確保上、点検間隔の見直しを求める意見が出た。

高齢者生きがい活動促進事業 100万円

谷地区ではこれまで、公民館、自治振興会など、それぞれの組織で活動してきた。しかし、高齢化により活動の継続が厳しくなったため、総合的な調整役・事務局的な役割を担う中間支援組織を立ち上げ、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる地域づくりを目指すためのものと説明を受けた。

議会活動報告 [7月~9月]

- 7** 1~4日 教育経済常任委員会:視察研修(宮城県)
9日 議会広報編集委員会:町村議会広報クリニック
12日 総務厚生常任委員会
19日 議会運営委員会:議会基本条例
- 8** 16日 臨時議会、議会全員協議会
20日 議会広報編集委員会:市町村議会広報研修会
22日 議会運営委員会:議会基本条例
30日 議会運営委員会

- 9** 4日 9月定例会:本会議、町長提出議案の説明
7日 :本会議、一般質問
10~12日 :委員会審査
13日 :委員会審査、予算特別委員会審査、
14日 9月定例会:本会議、討論、採決
議会全員協議会
18日 議会広報編集委員会:議会広報誌編集
25日 議会広報編集委員会:議会広報誌編集

寄ろうでえ〜！

赤名川オープン

赤名地区 集落支援員

金藤 正道さん
かねとう けいどう

昨年4月から赤名地区の集落支援員として、赤名公民館の中に机を置き、地域の活性化に取り組んでおられます。

中市にある福島邸(旧福島呉服店)を活用し、小さな拠点への取り組みを始められました。

集落支援員として目指すところは

支援員として2年目に入りましたが、以前から赤名の町の人達が「親しく寄って話の出来るところが欲しい」という意見を聞いていました。また、小さな拠点づくりの必要性ということが言われていますが、どうすれば地域の人達が住みやすい町に

明日を拓く



なるかということと合致させなければなりません。

まずは地域の方が寄り集まり、様々な情報交換をすることで課題が見えてくるのではないかと、というところからはじめています。

上赤名や下赤名は、農業の繋がりがりや毎月の常会があり、交流が保たれているようです。赤名はそのような機会が無いので、家は近いのに交流が希薄なところがあるのではと感じます。

私は、希薄になった人間関係をもう一度育てていきたいと考えています。ここは、私が地域の皆さんに寄り添い、皆さんが互いに寄り添う場所にしてもらいたいと考えています。

皆さんが立ち寄りたくなる施設として何を考えているのか

今年度は、福島邸に来てもらうために、赤名の歴史の話や展示会、音楽会など、ジャンルにとられない形で催しに取り組んでいきます。そして、赤名の皆さんは何に興味を持っていたのか、何をしたいのか、ここに来て何をすれば一番心地よいかを探りながら事業を進めていく考えです。

「寄ろうでえ〜！赤名川」は毎月一回、第3木曜日の10時から12時まで交流会を行います。私は、10月から毎週火曜日と金曜日に福島邸にいて、交流を深めていくことにしています。



「そうきましたか」と相手の長考一手にまた長考。自宅では味わえないギャラリー付の囲碁や将棋が福島邸では楽しめます。隣では女性たちがお茶を飲みながら賑やかに昔話に花を咲かせていました。花札やトランプなどの大勢で楽しむゲームや、面白いのは健康にも効果ある腹式呼吸の「吹き矢」やコツコツとトレーニングに励むルームランナーまであります。「みんなで楽しいことを」を合言葉に明日も福島邸で会いましょう!!

編集後記

今回も災害対策を問う質問者が3名ありました。

近年は災害が多発し、災害列島といっても良いほどの状況が続いています。

先日、「日本列島の異常な気象状況はこれからも続き、豪雨は今後ますます規模が拡大するというのが専門家の一致した意見」という報道もありました。

異常気象の際には、「まず我が身を守ってください」と言われますが、高齢化率が44パーセントを超える飯南町では、この基本となることもままならないのが現状になってきました。

地域ではお年寄りや障害をお持ちの方など、自発的な避難が難しい人が数多くおられます。その人達を安全な場所に誘導することが求められます。自治会・組寄りなど、機会があるごとに避難場所や避難経路、避難方法などを話し合う機会を持つことが必要だと思います。何か問題がある場合には、直ちに町に相談することをお勧めします。議員に相談を持ちかけてもらっても良いと思います。知恵を出し合って困難な状況に至らないよう努力して参ります。

安心して暮らせるまちを目指して、手を取り合っていきたいと思います。

議会広報編集委員会 伊藤 好晴